

## ICP2016組織委員会から

### ICP2016と公開講座

ICP2016は国際心理科学連合および日本学術会議との共催で開かれる。日本学術会議が共催する国際会議では、その研究分野に関係した一般向けの公開講演を行い、研究の社会への還元に取り組むことが要請されている。

ICP2016では以下の6つの公開講演と1つのワークショップが予定されている。一部はICP2016の開会式前に、他はICP2016の会期中の夕方に開かれる。なお、言語は日本語となるが、英語での解説をつけることになっている。

1. 山村浩二・横田正夫「アニメーションにおける運動はどう創造されるのか」；2. 北山修「『見るなの禁止』について：恥の文化における深層心理学」；3. 柘植雅義「教室での学習の多様性と日本における心理学の役割：その歴

史、現状、展望」；4. 越智啓太「犯罪捜査への心理学の応用：歴史と現状」；5. 川島隆太「コミュニケーションの質は脳活動の同期で推測できる」；6. 内田伸子「児童虐待からの再生：児童虐待は脳の成熟にどのように影響を与えるか」

また、ICP2016を契機に、横浜市と共催で心理学教育の次世代育成事業としてのワークショップ 池田まさみ・渡邊淳司「五感の不思議を探る：見る・聴く・触れるを科学する」（中・高生対象）も企画することになった。

これらは日本心理学会の公開講座も兼ね、心理学が直面する多くの問題を考える手掛りを与えてくれる。広く一般の方の参加を期待するとともに、ICP2016参加者の参加も望まれる。

(ICP2016組織委員会事務局長 渡邊正孝)

## 日本心理学会 若手の会から

### 楽しむ力

気が付けば、また新たな年度が始まりました。卒業、入学、異動等、とりわけ若手にとっては変化の多い季節です。こんな時期だからこそ、若手が身に付けておきたい「力」について考えてみようと思います。

若手心理学者に必要な力とは何でしょうか。たとえば、研究者としては、研究計画を立てて遂行する力が大切です。教育者としては学生の学びを促す力、そして、臨床家としては適切に介入できる力が重要です。さらには、人と繋がる力は、視野や知識を拡げて、やがて心理学を社会に役立てていく取り組みの礎となるでしょう。

このように望ましい力はいろいろ思いつきますが、若手だからこそと言えば「どんな状況にあっても楽しむ力」はいかがでしょうか。先行きが少し暗い時でも楽観できるのは、若手ゆえだと思いますし、新しいことを始める時に気楽に臨むことができるのは、若手ならではの特権

だと考えるのです。経験が浅いということは、想像力や対応力に多少欠けるということかもしれませんが、他方で斬新な視点も持ち合わせているということでもあるのです。

先日、「継続は力を大切に」と若手の会を応援して頂ける機会がありました。博士号をとっても希望するキャリアに続くポジションがなかったり、任期付のポジションが増えている昨今、腰を据えて研究できる環境がなかったりと、若手研究者に関わる課題は山積みです。それでも、若手たちが手を取り合い、先輩の知恵を借りつつも若手ならではの取り組みを楽しみ継続していけたら、若さゆえ解決していけちゃうのでは、と思ってみたりするのです。楽観的で、気楽過ぎるでしょうか……。

そんなこんなで、今年度も若手の会は走り続けます！「楽しむ」ことを忘れずに、そして、「継続」を心して。こんな若手の会への皆さまのご参加、心待ちにしています。

(若手の会共同世話人 小川健二・鈴木華子)